



英国流 持続可能なまちづくり・住まいづくりシンポジウム



2022 **7/20** 水

参加費無料
(事前登録制)

英国では100年以上前に建てられた多くの建物が今も住宅として使われており、魅力的な街並みをつくりあげるとともに、持続可能なまちづくり・住まいづくりを実践しています。当シンポジウムでは「あしたの賃貸 英国編」として、「英国の集合住宅は、なぜ100年以上も使われ続けているのか」をハード、ソフトの両面から解き明かし、これからの日本の賃貸住宅におけるビジネスモデルのヒントを提示します。

13:30-13:40

主催者挨拶

13:40-13:50

イントロダクション

英国流に学ぶべきものとは？

英国の住宅着工戸数は日本の約1/5、英国の既存住宅の取引件数は、日本の6.2倍、そして、住宅問題はいつも重要な政策課題として議論され続けている。歴史あるものを愛する国民性とともに、合理的な対応策についても学びたい。



松本 真理
一般財団法人住宅改良開発公社
住まい・まち研究所
所長

13:50-14:20

第1部

日本での持続可能なまちづくり・住まいづくりの取組事例



サステナブルな賃貸住宅「シニア向け賃貸住宅編」
福田 浩司
旭化成ホームズ株式会社
マーケティング本部 集合住宅事業推進部 部長



まちを「再耕」するリブネスタウンプロジェクト
河内 毅文
大和ハウス工業株式会社
東京本社 リブネスタウン事業推進部 戦略企画グループ 主任



Fujisawaサステナブル・スマートタウンの取組み
熊谷 一義
パナソニック ホームズ株式会社
街づくり事業部 プロジェクト推進部 室長

14:25-16:10

第2部

なぜ、英国のまちや住まいは100年以上活用され続けるのか

講演1 英国流 都市デザイン・所有形態・住宅市場の流通

英国の住宅市場と都市デザインの関連性を明らかにするために、100年前に開発されたレッチワース田園都市と、その進化型であるピスター・ヘルシータウンを紹介する。その後、住宅の所有形態と流通の仕組みが100年住宅の売買を促す住宅市場をいかに支えてきたかを解説し、住宅を長期に使うことに貢献してきた都市計画と住宅市場の役割を明らかにする。英国の事例が、日本における持続可能な住宅開発と街づくりに、どのようなヒントを与えるのかを考える。



大塚 紀子
ILS Research gGmbH 上席研究員
竹中工務店大阪本店勤務後、1997年に英国ヨーク大学にて建築学の修士号、2004年、オックスフォード・ブルックス大学にて都市デザインの博士号を取得。英国やスイスでの大学勤務を経て、2018年よりドイツ、ドルトムントのILSリサーチにて上席研究員として勤務。大阪大学特任講師、一級建築士

講演2 英国流 集合住宅の成り立ち、素材、施工方法

英国の集合住宅が改装やリノベーションを通して、どのように100年以上使われ続けているのかを、集合住宅の成り立ち、素材、施工方法から実際の事例を通して解き明かし、さらに、持続可能な開発を目指した最新の英国の集合住宅の事例を紹介する。英国の事例から、日本における持続可能な集合住宅開発のための、改装やリノベーション、コンバージョンを通して長期に集合住宅を使うための課題や、そのための施工方法や素材などに対するヒントを考える。



漆原 弘
Urushibara Architecture and Consultancy 代表
早稲田大学建築学大学院修士課程終了後、SKM設計計画事務所/近代建築研究所勤務。1999年、英国ヨーク大学で博士号取得。その後、アイルランド、英国の設計事務所勤務を経て、2019年にUrushibara Architecture and Consultancyを設立。一級建築士、王立建築家協会会員、英国政府登録建築家

16:20-16:50

質疑応答

視聴者のみなさまからお寄せいただいた質問に、講演者が生で回答させていただきます。

開催日時 2022年7月20日(水) 13:30-16:50
開催方法 YouTubeによるライブ配信
主催 一般財団法人 住宅改良開発公社
後援 独立行政法人 住宅金融支援機構
一般社団法人 プレハブ建築協会

ご参加には事前申込が必要です。
最新情報はWebサイトをご覧ください。
<https://ashitanochintaipj.com/uk/symposium/>

